「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | | ②職名・授業者氏名 | | ③教科 | ④ペアでの  話合い活動 | ⑤グループでの  話合い活動 |
| ５年１組 | | **日田　太郎** | | 外国語 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | | He can bake bread well. (Unit 4) | | | | |
| ⑦本時のねらい | | 自分やクラスメイト、身近な人に関するcanを含む文を、必然性のある場面で聞き取り、技能的に使う場面に多くふれたりすることを通して、概念的な理解をもとに、書くことができるようにする。 | | | | |
| ⑧本時の評価規準 | | 【知識・技能】 聞くこと・書くこと  助動詞canの意味、用法を類推及び概念的な理解をもとに、canを含んだ文を書いている。〔ワークシート〕 | | | | |
| ⑨  展開 | めあて | 自分や身近な人の得意・不得意（できる・できない）なことを伝え合おう。 | | | | |
|  | 課　題 |  | | | |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の児童への手立て  ・canは｢できる｣と類推することが難しい生徒には、個別に対話で慣れ親しんだ英文や例文にジェスチャーを加え、「～できる」という言い方に気づかせ、絵が付いたワードバンクを使いながら、ゆっくり伝えさせる。  ・文字の認識が不十分な生徒には、なぞり書きできるワークシートを準備し、例文を参考に書かせる。 | | | |
| 「特別な支援等の配慮を要する」児童への手立て  ・授業に集中することが難しい生徒には、電子黒板や絵カード等を使って視覚的に情報を与えながら、小さなタスクを短い時間で設定して聞いたり話したりさせる。 | | | |
| まとめ |  | | | |
| 振り返り | ・「上手に～できる・できますか」と言うときはcanとwellを使う。  ・となりの人にどんどん聞いて答えてもらったとき、相手に伝わったと思った。  ・料理をするときに相手に何をつくることができるか聞いてみたい。 | | | | |
| Unit 4 He can bake bread well.  めあて　自分や身近な人の得意・不得意  （できる・できない）なことを伝え合おう。　　　２．友だちのこと  １．自分のこと　　　　　　　　　　　　　　①I like swimming.     * 1. I like swimming.　　　　　　　 ②I can cook pancakes.   2. I can cook pancakes.　　　　　 ③I can’t play baseball well.   3. I can’t play baseball well.　　　振り返り | | | | | | |